

グループもみじ



法人理念

「ひとりの人を大切にした まごころ介護」

「ひとりの人の可能性を信じる まごころ介護」

私たちグループもみじは出会いから、最期まで
ご本人・ご家族のパートナーとして寄り添い続けます。
「必要なときに・必要なことを・必要なだけ」
もう一つの我が家として暮らしのお手伝いをいたします。

コロナウイルスの感染拡大の影響で様々なイベントの自粛が求められています。そんな中、今年は例年より早く桜の開花の便りが聞かれるようになりました。お花見も自粛が広がる中、身近で楽しむお花見に注目が集まっています。今年ならではの光景がみられるかもしれません。

みんなのあもり



タやけ小やけ



長野市 & 松本市

さくら



夢いちもんめ



季節で感じるもみじの宅老所

8月、9月



夢いちもんめ



毎年恒例の
“夢いちもんめ夏まつり”
地域の皆様への感謝と
親交を深めました。



今年も、ご先祖
様をお迎えす
る準備ができた
しました。



タやけ小やけ



コスモスの花を並べた素敵な
“9月のカレンダー”が完成しました。



秋晴れの日松本市の
「あがたの森」公園へハイキ
ングに出かけました。
愛犬“ムク”と“ラン”も一緒
です！



さくら



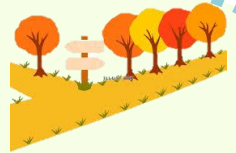
“偲ぶ会”では、さくらの思い出の写真をスライドで上映し、故人を偲びました。
たくさんの笑顔がさくらにあったこと、そしてそれは「今」もしっかり繋がっていることを共感しました。



地元の中学生2名が職場体験へ
「さくら」の皆さんから質問があります。
～興味津々です～



10月、11月



長野市内が秋色になり始めた10月初め、「足湯」に出かけました

みんなのあもり



「初めて入ったけどこういうのもいいね！」とヒロジさん、「わ～あったかいよ」とタマコさん帰るころには足がポカポカに温まりました。



今日は足湯の代わりに土手沿いを散歩…紅葉や柿の実を見て「もう、そんな季節なんですね」とキヨミさん。秋を感じた1日でした！

夢いちもんめ

こんなに大きなお芋が採れました。「どうですか？すごいでしょ～！」



さくら



おかげさまで108歳になりました、皆さんありがとう！



第1回みんなのあもりサロンへようこそ！」



ほっとした会



“ほっとした会”では、利用者ご家族さまと様々な話題を共有することで、いつの間にか悩みも笑いに変わっていきます。



12月、1月、2月



年忘れ会

みんなのあもり



12月、みんなの
あもりの畑で、
りっぱな大根が
収穫できました。



地域の幼稚園から手作りカレンダーが届きました。

夕やけ小やけ



節分祭



2月4日の節分祭
「昔、子どもの頃お母さんに教えてもらってよくやったな〜」
と、みんなで恵方巻を作っておしくいただきました。
これで今年も無病息災です

「あら！かわいい鬼さんね〜」

職員の手記より ～「認知症の専門医が、母を看取って思うこと」を読んで～

認知症専門医が、母を看取って思うこと



齋藤正彦院長

この本は、ノンフィクション作家「奥野修司」氏が認知症の専門医である齋藤先生の母が認知症になったことへの様子をつづっています。その記事をグループもみじの学習教材としてレポートし、2人の感想を抜粋しました。

齋藤正彦院長

この数か月、自分が物忘れが多くなっているのでは？と不安に思うことがよくあります。98歳になる母に「水道の栓締めてない、水出しっぱなし！」と注意すると、「お前もそうじゃないか？」と言り返される。「いったいどっちが？」とわからなくなったりしています。先日、長谷川先生がテレビのインタビューに認知症になって何か風景が変わりましたか？と聞かれている場面がありました。長谷川先生は「何も変わらない、風景すべて前のまま」と答えていらっしゃいました。その気持ちが基本だなと思います。アルツハイマーの物忘れは忘れたという認識がない、自分は自然に当たり前に普通に生きているだけ！なぜ家族に叱られるのか？わからない！家族に叱られること、何もわからないということが、どのくらいの悲しみ、衝撃かと思い知りました。自分の母を見ていると老いていくのは大変なことだと思います。

私は認知症になった方が毎日同じ空気を吸い、同じ風景を見て、以前と変わらない気持ちで生きていることに思いをはせ、つき合っていきたいです。忘れるという認識がないのだから……。「頭の中がぐちゃぐちゃなの」という言葉をよく聞くので「何か変？」という不安な思いにもつき合っていきたいです。（介護福祉士）

認知症の専門医である齋藤先生は、母を看取ったあと残された母の日記を読み、自分と母との思いのズレを感じ、「あの時こうしてあげていたら」と後悔の念をもった。また、認知症の母の傷ついた心の内や、母自身の身の回りに起こることへの母の不安に気づいてあげられなかったことも深く後悔した。

これらの後悔の体験を通して、介護する人と介護される人との思いのズレが多く存在していることを指摘した。
（中略）

これらの諸問題を解決するためには、まず認知症は脳の耐用年数が切れた症状、つまり老化現象であることの理解が必要である。そして、思いのズレが生じるのは、誰のせいでもないことを合わせて理解することの大切さを語っている。さらに、わからないから何を聞いても無駄という偏見をやめること、認知症の方の言葉に耳を傾け、言葉が出なかったら表情から気持ちを読み取ることが、思いのズレの解決につながると語っている。

振り返ってみると、本施設にもこのような思いのズレが生じている。それは小さなズレから大きなズレまでいたるところで見ることができる。例えば、ある日食事を素手で食べている〇〇さん。手で食べるのが必ずしも悪いということはないが、スタッフが〇〇さんのおはしを持たせると、「あっ、そうだ」と思い出したように上手にはしを使う。ここで大切な点は、認知症が進むと忘れてしまうという状態から、所作がおつくうに、さらに進んで無意欲となり、できることもできなくなりやすいという介護者の理解である。〇〇さんの表情を見ると、無理強いされ嫌がっているのではないことが、はっきり見てとれる。タイミングよく、利用者さんが守ってきた生活習慣を利用者さんの思いを大切に支えてあげることだと思う。こぼしてしまい、素手を使われるので盛り付けや器の工夫も必要です。

以上から私は、利用者さんと介護するスタッフの思いのズレをうめるには、利用者さんの今までの人生や今の様子、つまり人生まるごとを家族も含めて介護に関わる人すべてが共有し、利用者さんの介護の仕方を考えることが大切だと考える。（介護支援員）

グループもみじ学習会

～感染症対策～

コロナウイルスの感染が広がっていますが、令和2年2月のグループもみじ学習会では、感染症について学びました。スタッフ一同で感染症への対応を検証し、認識を深めました。

学習の主な内容

- ・ インフルエンザの特徴、その予防
- ・ 発生時の対応の方法(まん延の防止)
- ・ 直接の対応、羅漢した方へのケアの注意点、嘔吐物、排泄物の処理等
- ・ コロナウイルスへの理解と対策など



2019年度 第2回 名古屋市計画作成担当者研修より

名古屋市社会福祉協議会の主催で毎年行われるこの研修は、小規模多機能型居宅介護事業所の計画作成担当者となる方を対象に、必要な知識、技能を身に着けることを目的に行われ、毎年当法人の田中代表が講師としてお伺いしております。新型コロナウイルスの影響が心配されましたが、講義は少人数のグループワーク形式で行われ、全員マスクをつけ、1時間ごとに窓を開閉するなどの対策が取られました。研修後、参加者からは「暮らしを見つめるよい機会となった。」「今必要なことがよくわかりました。」などの感想が寄せられました。

令和2年2月26日



地域の人権教育ネットワーク整備会議 研修会を終えて

令和2年2月6日(木)長野市合同庁舎にて、人権教育担当者会議が開催されました。「お年寄りはずよい人～守り守られる関係づくりのために～」と題して、グループもみじ田中代表が、「認知症」を含めた高齢者との関わり方についてお話をさせていただきました。当日は北信教育事務所管内市町村人権教育担当者、学校職員など約60名の方が参加され認知症についての理解と認識を深めました。



講演後の質疑応答より

「自分も年を取っていくが、認知症にならないようにするために予防、ためになることはないか？」との質問がありました。

田中代表は、絶対の予防はないが、地域のなじみの場所に身を置いて仲間と話すことが、何よりも脳の刺激になり認知症をふせぐことにもつながるのではないかと締めくくりました。

後日ご担当者から、参加された方々の感想を記したお礼の手紙をいただきました。(以下のとおり)



- ・ 認知症について知っているつもりでしたが、知らなかったことも多く、大変勉強になりました。認知症で「困っているのは本人」というお話に、ハッとさせられました。
- ・ これからの社会では、認知症になった人とかかわる時が必ず来ると思います。その時にいかにして対応していかなければならないかということを、学校で学習する場を作ることが大切だと思いました。
- ・ 亡くなった母の認知症の状況を思い出しました。時々、母でなくなる時、元に戻る時、攻撃的になる時、叱ってはいけないと、分かっているのに叱ってしまう私がありました。田中先生のお話を早く聞いていれば、もう少し優しくかわれたかなと思うところもありました。

関係者のみなさま、ありがとうございました。

夢いちもんめ休止のお知らせ



平成 18 年 11 月開所
認知症対応型通所介護
築 100 年の建物を改築
再利用する

宅幼老所夢いちもんめは認知症対応型通所介護事業所として平成 18 年開設以来、皆様にご愛顧頂いて参りましたが、法人が 20 年を迎えるに当たり、事業の見直しと新しい体制を構築しさらに社会に幅広く貢献するため、松本での事業を一部変更いたします。令和 2 年度からは松本での事業は、「夢いちもんめ」を休止し、「タヤけ小やけ」を中心にした体制でスタートいたしますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



平成 27 年 4 月
旧夢いちもんめより
市街地に移転しスタートする

グループもみじは 20 周年を迎えます

グループもみじは、2000 年(平成 12 年)に長野市安茂里に宅老所みんなのあもりを開設して以来今年で 20 年を迎えます。

認知症の人を支え続け、地域に根付く介護、「一人の人の最期を大切にする」実践が地域密着であり、小規模多機能を実現しました。平成 30 年には、24 時間型ケア、終末の安心と保障のながれをつくるため、有料ホーム併設の小規模多機能ホームみんなのあもりを全面新築しました。

NPO 法人グループもみじ 〒380-0941 長野県長野市安茂里葭ヶ淵 1861
電話 026-227-4425 FAX 026-217-7764 ホームページ グループもみじ

検索



介護でお困りの事などお気軽にお問い合わせください。見学も随時受け付けております。

みんなのあもり	長野市安茂里葭ヶ淵 1861	026-226-0903
宅老所さくら	長野市吉田 5 丁目 13-7	026-244-7104
タヤけ小やけ	松本市並柳 1 丁目 3-18	0263-87-2760
宅幼老所夢いちもんめ	松本市庄内 1 丁目 7-17	0263-26-1680

(4 月 1 日より 地域交流サロン に変更します)